

## 12. 利尻 島の駅「海藻の里・利尻」

(利尻町・NPO 法人利尻ふる里・島づくりセンター)

～ 利尻島が有している地域資源の魅力発信 ～

### ■ 利尻島最古の建物

利尻町杓形商店街の一角に島の駅「海藻の里・利尻」がある。旧海産物問屋を利用したこの建物は、現存する利尻島最古の建物。

島の駅を運営するのは、NPO法人利尻ふる里・島づくりセンター。同センターは、地域資源の蘇生によるまちづくりをコンセプトに活動を展開しており、歴史的建造物の資源蘇生という観点からこの建物を島の駅として活用することになった。



道の駅「海藻の里・利尻」

### ■ 「海藻おしば（押し葉）」づくりが体験できる

利尻海藻おしばとは、利尻島に存在する食用にならない雑海藻を利用し、押し花技術を取り入れたアート。

島の駅では、こうした海藻おしばづくりが体験できる。併せて、作品ギャラリーや海藻おしば関連商品の販売、カフェスペースなどの機能も備えている。また、中庭にある石蔵では油絵や詩人の作品展示を行っているほか、地域住民や音楽愛好グループと連携してミニライブコンサートなども開催している。

6月から9月の最盛期には、3日に1回のペースで体験ツアーが訪れるという。年間の来場者は約 4,000 人、夏休みは親子・家族連れが、体験ツアー客は高齢者、個人客は若者が多い。

### ■ 地域との連携を強め、全国に発信

同センターでは、海藻おしばコンクールを平成16年に実施した。こうしたコンクールは全国初の試みで、第1回から10年目となる平成27年、第2回目のコンクールを実施し、海藻おしばのすばらしさを全国に発信している。

同センターの小坂理事代表は、「今年から通年営業としたため、今後は冬のイベントを増やし、利用客の増加を図ることとし、イベント開催にあたっては、地元学生との連携を強めていきたい。併せて、今回のコンクールで試みた商店街の空き店舗を展示会場にしたように、今後もこうした空き店舗を島の駅で行っているギャラリーなどの常設の展示場所として活用していきたい。また、将来的には、利尻昆布をはじめとする、利尻が有する様々な地域資源の魅力を島の駅や商店街で表現していければ」と抱負を語っていた。



照会先  
(運営主体等)

■ NPO法人 利尻ふる里・島づくりセンター  
利尻郡利尻町杓形字本町 (0163-84-2514)  
HP (<http://www.rishirishimanoeki.blog28.fc2.com>)